

梅鶯仏教壮年

第13号
2004年
7月11日

次回例会

期日：7月25日（日）

夜7時～8時半

プログラム

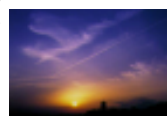
お勤め・法話

話し合い

お勤め練習（正信偈行譜①）

◎話し合いテーマ

「お話を聞いたときは分かったような気がしますが、家に帰ったら忘れてしまいます。」



前回のテーマは、「仏教—その教えの根本は—と題しました。大事なテーマではあるのですが、やはり少し重すぎた感があり、話はあまり弾みませんでした。そこで今回は、親しみやすいテーマを選びました。誰もが少なからず感じていることではないでしょうか。互いの思いを語り合ってみたいと思います。」

真夏日・熱帯夜の季節到来。そんな夏の夜の「ひととき」、心に涼しさを求めてみませんか 例会への参加をお待ちしています。

八幡別院二大法要に参加して

副会長 田中薫

さる、5月23日（日）、本願寺八幡別院における蓮上人五百回遠忌法要ならびに修復落成慶讃法要の二大法要に、梅鶯仏教壮年会より、北村会長、田中副会長とともに、坂田組からバス一台を貸し切り、箕浦の花房副組長さまのご案内で参拝させて頂きました。

八幡別院の修復事業は平成3年に起工以来、約13年の歳月をかけ立派に修復されました。当日は、本願寺光真ご門主をお迎えして、荘厳な雰囲気の中で、法要のお勤めが執り行われました。

ご門主さま自らが御導師を勤められるのは、本山においても滅多にないとのこと、良いご縁にめぐり合わせて頂けたと、感謝いたしております。

記念布教では、大峯顕師が、「なぜ『いのち』は尊いのですか」との演題で、いのちの尊厳の本当の理由についてお話をいただきました。



一個人の命が尊いのは、それだけではなく、個人を超えた阿彌陀如来の無限のいのちによるものであり、私個人のいのちは個体（私の身体）をはなれて存在をしないものではないにもかかわらず、個体以上の如来のいのちによつて、ささえられていられるのであるから尊いのであるとお説きになりました。

御仏のいのちの海に浮かんでいる私（個体）のいのちであるたことの目覚めが、他力本願の信心だと結ばれました。

大変奥深い内容のご法話で、時の経つのもしばし忘れて聞き入ってしまった。合掌

水の上に石を置けば、その石は、

水底に沈むであろうが、その石を船に乗せれば、

罪深く、咎（とが）重（おも）い自分

は、沈まねばならぬ苦海に

なれば必ず地獄の苦海に

沈まねばならぬであろう

に、沈まねばならぬであろう

な、よろこばしいかな、

阿彌陀如来の

救いの大船に乗せられて、

沈むままに沈まずに、

かならず浄土に

題材法話

○私達の悩み

あらゆるものは、時間とともに移り変わり（諸行無常）、私一人では、けつして存在することはできない（諸法無我）。

このことを素直に受け入れられず、悩みが尽きないのです。これは煩惱と呼ぶことは前号でお話しました。生活に照らし合わせますと大いに頷けます。

例えば、諸行無常といえ

ば平家物語の、祇園精舎の鐘の

諸行無常の響きあり

沙羅双樹の花の色

盛者必衰の理をあらわす

奢れる者久しからず

に代表されるように、なに

かもの悲しく、はかない感

じを受けますが、実は、子

供が大人に立派に成長して

いくことも、物事

が立派に完成する



なのです。

都合の良いいことには無常と

は感じず、老いることや、

病むことや、死に往くこと

にのみ無常と嘆き、苦悩す

るのです。

けれど自然の理（ことわ

り）からいえば全て同じ無

常によつて成り立っている

のです。

また、人間関係における

悩みのほとんどは、私一人

で存在することのできない

この私であるにもかかわら

ず、「私の考え方で他人も

存在して欲しい」と思うこ

とから生じているのではな

いでしょうか。

○涅槃寂靜の世界

もちろん他人の考え方や

行動が、私にとつて理不尽

なこともあるでしょうが、

往々にしてその他人もこの

私のことを理不尽と思つて



ば、それは肝心のどうすれ

る。それが安住の境地に達す

か。

お釈迦様はその方法を百

万の法蔵といわれる数多く

のお経の中で、様々にご説

法されておられますが、そ

の究極が阿弥陀様のご本願

に全てをお任せしなさいと

いうことなのでした。

「いづれの行もおよびが

たき」この私達のための本

願念仏の教えなのです。

このみ教えは、龍樹菩薩

様や善導大士様、さらには

法然上人様など七高僧と呼



た諸行無常、諸法無我の真

理を、決定的に証明したの

は、意外にも、20世紀科

学だったのです。

20世紀科学の最大の発

見ともいわれるアインシュ

タインの相対性理論がそれ

なのです。

もちろん相対性理論の詳

しいことは難しく分かります

ませんが、すべてのもの

時間と空間との関係におい

て時々刻々と変化すること

を科学的に証明したものだ

そうで、まさに諸行無常、

諸法無我の証明です。

20世紀の科学で漸く証

明されたことを、二千五百

年もの前にお釈迦様が宗教

的洞察力で既に見抜いてお

られたことに改めて驚きを

感じます。

5月例会住職法話より
（前号からの続

き）

9月19日（日）・20日

（月・祝）には、梅鶯仏社初め

ての一日泊

旅行が予定されています。

